

s o p h i a ~10月号



譲れないモノ

この前、大学の友人たちと東京で同窓会を開いた。卒業後、就職の関係で福島を出て行った友人たちは、その多くが関東地方で働いている。そのため、会うのは卒業以来だという友人もちらほらおり、会う前までは大都会東京で働く友人たちが都会の色に染まっているのではないかという不安もあった。ところが、会ってみればなんてことはなく、あのころの関係に戻れるのが不思議で心地よかった。

金曜日の夜から東京に乗り込み、日曜までの3日間を心底楽しんできた。職業はさまざま、OLもいれば銀行員もいるし、国家公務員もいれば、テレビ業界で働いている奴もいる。日々生徒と教員に囲まれ、規則正しく過ごしている私にとってはとても刺激的な同窓会であった。そんな中で話題は尽きることなく話は弾んだ。ただしその中身は大学時代のようにキラキラしたものはほとんどなく、重く辛い仕事の話がほとんどだった。

例えばとある職業では、今でも男社会という気風が強く、女性社員は肩身の狭い思いをしているそうだ。その最たるものがセクハラで、上司からハンコを押してもらっただけで手を握られたり、一人でいると迫られたりするらしい。こんなにセクハラに対する制裁が厳しくなっているにもかかわらず、まだそんなことしているのかと思われるほどひどいものが今でも横行している。私の友人はあまりのセクハラの酷さに堪えられず、3年働かずに仕事を辞めていた。また他の一般企業では、友人は自分より年上をまとめる役職に就いてしまい、毎日言葉一つ動作一つに気を配って戦いだと言っていた。大学を卒業して正社員になれば、どうしたってパートやアルバイト、非正規雇用の人たちの上に立つ。22才の青二才が、それこそ40才、50才、もしかしたら再任用の60才オーバーに指示を出すのが当たり前の世界。それが今の社会なのだ。そこで私の友人は、自分のキャリアアップのために頑張っている。

一方で、彼らは本当によく転勤を命じられている。しかも県内の移動ではなく、県外、東北から関東とか、またその逆とか。その度に人生の選択を迫られていた。ある友人はそれを機に結婚したというし、ある友人は遠距離恋愛をしたが持たなかったという。1日目に泊めてくれた友人は、東京から北海道への転勤をするかしないかを、月曜日までに返事しなければならず悩んでいた。しかもその友人は先月4年ぶりに彼氏ができたばかりだったから悩みも深い。新しい環境に飛び込みたいという思いと、将来を考えている彼氏の傍にいたいという思いと。一体彼女はどちらの道を選んだのだろうか。

これから受験をし、社会に出るために就職活動をする日が必ず来る。そのとき何に重きを置くのか。考えたことがあるだろうか。私も高校生の時、自分の進路に手いっぱい、そんなこと考えていなかったのだから偉そうなことは言えない。けれど、私がみんなに関われるのはこの三年間だけだから、人生のほんの少しの先輩として言わせてもらいたい。なぜその大学を選んだのだろうか。その大学、その学校、その企業に入って、10年後の自分はどうなっているのだろうか。何を大事にして生きているのだろうか。考えたことがあるだろうか。家族か、お金か、仕事か、友人か、趣味か、ペットか、、、何を大事にするかはなんでもいい。とにかく、自分にとって一番大事なものは何か決めておくこと。そして、それだけは何かがあっても手放さないと決めておくこと。そうすればきっと、後悔はしないから。

【10月行事予定】

10月	3日(月) ~ 4日(火)	二学期中間考査
	3日(月)	衣替え・登校指導(～7日(金))
	4日(火)	避難訓練 第3回校内選考会担任受付〆切(一般公募推薦等)
	8日(土)	全統記述模試・英検
	10日(月)	体育の日
	11日(火)	第3回校内選考会
	14日(金)	面接週間・短縮45分(～20日(木))
	15日(土)	進研記述模試
	18日(火)	7校時カット
	19日(水)	献血 月曜日授業
	20日(木)	7校時カット
	21日(金)	第4回校内選考会担任受付〆切 (国公立CT有含む一般公募推薦・指定校推薦)
	22日(土)	全統マーク模試・医療看護模試
	25日(火)	福島大学経済学部説明会(放課後希望者)
	27日(木)	第4回校内選考会
	29日(土)	土曜課外



【個別指導を受ける際の注意】

推薦の指導を受ける人が多く出てきました。三連休明けには指導教員を指定され、放課後個別に指導を受けるようになります。そこで指導がスムーズに始められるように、以下のものを準備してから担当教員の下を訪れるようにしてください。

- ①学校案内・入試要項
- ②試験内容
- ③過去問・受験レポート



【小論文の勉強法】

個別指導を受けるものとして、小論文があると思います。添削してもらおう側として、次のような意気込みで挑んでください。

形式だけなら2週間で整えられる。けれど、知識を頭に入れるのには一カ月以上かかる。

つまり、最低一カ月は必要になるということです。何を書いたらいいかわからないという人は、担当教員を訪れる前に情報を集めましょう。とにかく受験分野の本や新聞を読んだり、ニュースを見たりして、新しく知った情報はノートにまとめてください。その知識がなければ小論文は書けませんし、字数を埋められない人を指導はできません。白紙の原稿用紙を持って指導してくださいなんていうのは甘えです。出来るところは自分で自分を鍛えてきてください。